

## 活動報告書 FIWCフィリピンワークキャンプ代表 井上聡

経済学部経営学科 3年 09022036

フィリピンのレイテ島のビナバイエという村で今回は小学生たちのために机付きの椅子を 157 個作成した。その経緯としては同じ村に去年FIWCフィリピンワークキャンプが建造したプレスクールという学校(小学校の前段階の学校)の建物の中に、貧しさから椅子が完備されていなかったためである。去年参加し、作った学校に椅子が無いことを知り、ショックを受けた僕は、今年、代表としてこの学生団体を引き継いだ。

期間は 17 日間で、現地の村の大工さんを日雇いで雇い、日本人のメンバーの他に、現地の青年たちが無償で手伝ってくれた。この村の人たちは全員、僕を知っていて今回のプロジェクトに大変協力してくれた。

まず、資材を大工さんや村人、村長が相談し僕たちが村に着いてすぐ後に資材が届いた。日本人が来るという信頼でお金は資材が届いた後に僕たちが払った。資材費用は全て日本人が負担したが、仕事を休んでも手伝ってくれた青年や、ホームステイを通しての活動なのでお金に代えられない経験が新メンバーには出来たと思う。

まず、資材を大工さんが機会を使って長方形に形を整える。整った木材を決められた長さに僕たちが切り、やすりをかけ、釘、ボンド、カンナを使って青年たちと組み立てていく。一定の数の椅子が出来上がるとペイントをし始める。色は村人や子供に聞いて茶色に決まった。ペイントは子供たちのお母さん達も大勢手伝ってくれて、ペイントはスムーズに、綺麗に仕上がった。

また、昼食だが、おかず代はお金を払ったが、お米代はお母さん達が毎日負担してくれた。裕福では決してない村人たちの協力に大変感謝している。

現地の子供たちは椅子が157個完成すると大喜びで、さっそくこれは僕の！と言いながら名前を書いていった。左利きの子供が数名いたので、その子用に作ると、その子供と親御さんたちは大変喜び、感謝してくれた。

今回のプロジェクトは学歴社会のフィリピンで、子供たちの将来を担う教育という面で多少の手助けが出来たのではないだろうか。

去年作ったプレスクール(黄色)



今年作った椅子(子供も自主的に遊び感覚でお手伝い)





作業の様子

授業の様子

